

景気動向調査の概要【平成28年7月～9月】

平成28年11月30日
富山商工会議所

景気の停滞感、色濃く

～「緩やかに後退」「後退している」と回答企業の3割が回答～

今回の調査では、景気の現況のほか、人材育成・確保に関する取り組みや北陸新幹線開業後の影響などについて聞いた。

景気の現況については、「後退している」16.0%、「緩やかに後退している」16.0%との回答が全体の3割強を占め、景気の足踏み状態が続く中で、後退感を訴える企業が多少増えた。今期の売上高DI（景況判断指数）は▲15.4（前期±0）、採算DIは▲42.3（前期▲32.1）となり、何れも前期に比べマイナス幅が拡大した。一方、来期（10-12月）の見通しを示すDIは▲19.2（前期▲25.0）となり、マイナス幅は縮小した。

業界別の動向を見ると、製造業においては、海外を中心に製造ラインの自動化や省人化ニーズの高まりから、産業ロボット関連が堅調に推移した。一方、国内での自動車や工作機械の生産が減少したことから、軸受け（ベアリング）の生産が不調となった。

自動車関連では、北米並びに中国での四輪自動車の販売が回復したことから、同地域向けの四輪エンジン部品の受注が好調に推移した。一方、国内では、熊本地震の影響から、取引先の工場生産が休止しており、二輪関連部品の受注が大きく減少した。

電気機械関連では、電装化やIT化が急速に進んでいる自動車分野が好調に推移したが、液晶テレビやAV機器、パソコン等のデジタル家電分野は依然不調である。

医薬品関連においては、ジェネリック医薬品の好調な動きを受けて、OTC（薬局・薬店向け）医薬品包材のほか、医薬品パッケージ用の板紙や添付文書用の洋紙など関連分野も順調に推移した。

非製造業において、旅行関連では、国内及び海外向けの団体旅行が好調だった一方で、個人の国内旅行が不調となった。また、宿泊関連では、海外旅行客の利用は多かったものの、新幹線効果が大きかった前年度に比べ、宿泊者数は前年に比べ減少した。

最後に、人材育成・確保に関する各社（業界）の取り組みについて聞いたところ、求人募集を行っているが応募が少なく、人材確保が困難になっていると言った意見が多く聞かれた。人材確保に向けた具体的な取り組みとしては、会社説明会の開催回数を増やしたり、東京など首都圏で説明会を開催したりして、新卒採用者の確保に繋げているといった意見が聞かれた。また、人材育成面では、会社内部の研修プログラムの活用や、グローバルに活躍できる人材育成としての英会話研修の実施など、今後の企業を支える人材育成に積極的に取り組んでいるといった内容であった。

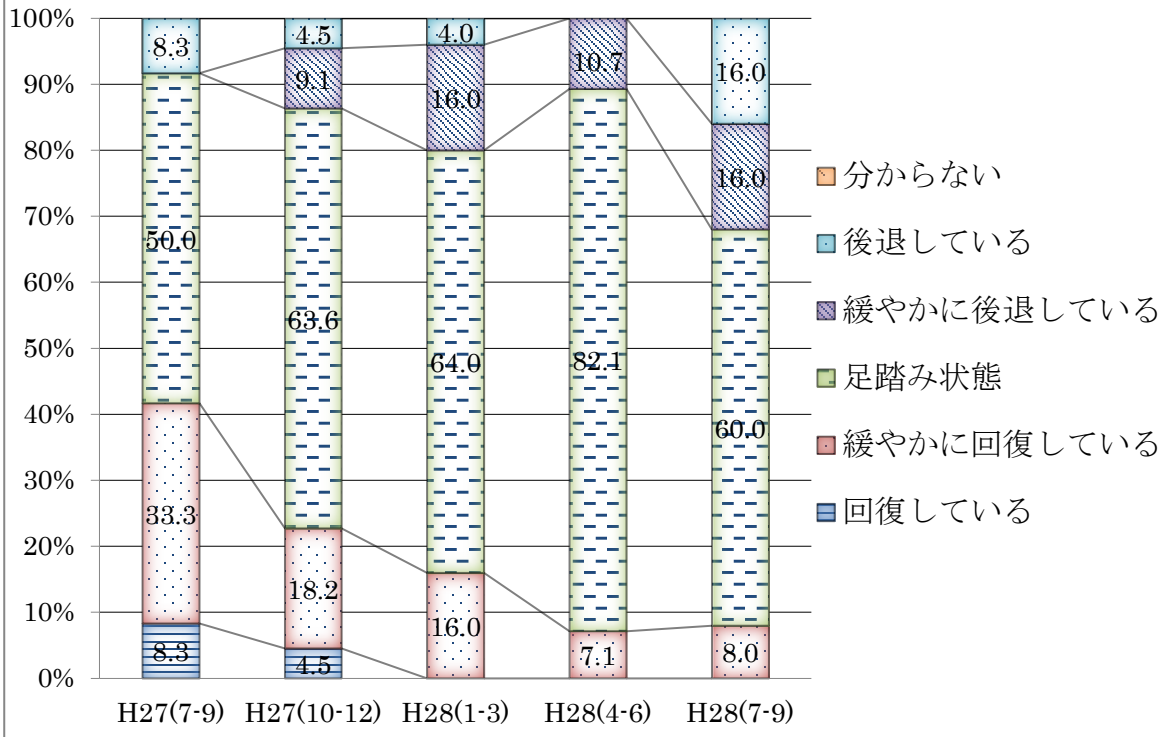
<実施要領>

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1. 調査実施期間 | 平成28年10月4日～10月14日 |
| 2. 調査対象 | 当所景気モニター企業 29社 |
| 3. 調査方法 | 調査票を郵送し、FAXで回収（一部、電話による聞き取り調査を実施） |
| 4. 有効回答数 | 26社（回収率89.6%） |

(1) 今期の状況

今期の状況 (%)		27年 7-9月期	27年 10-12月期	28年 1-3月期	28年 4-6月期	28年 7-9月期
①売上高	増加	48.0	39.1	40.0	32.1	26.9
	不変	24.0	26.1	16.0	35.7	30.8
	減少	28.0	34.8	44.0	32.1	42.3
	D I	20.0	4.3	△ 4.0	0.0	△ 15.4
②売上単価	上昇	40.0	26.1	29.2	18.5	19.2
	不変	44.0	39.1	37.5	48.1	46.2
	低下	16.0	34.8	33.3	33.3	34.6
	D I	24.0	△ 8.7	△ 4.1	△ 14.8	△ 15.4
③仕入単価	低下	8.0	13.0	20.8	17.9	19.2
	不変	44.0	43.5	50.0	57.1	61.5
	上昇	48.0	43.5	29.2	25.0	19.2
	D I	△ 40.0	△ 30.5	△ 8.4	△ 7.1	0.0
④採算	好転	44.0	26.1	34.8	17.9	15.4
	不変	36.0	34.8	17.4	32.1	26.9
	悪化	20.0	39.1	47.8	50.0	57.7
	D I	24.0	△ 13.0	△ 13.0	△ 32.1	△ 42.3
⑤資金繰り	好転	8.0	4.3	4.2	7.1	0.0
	不変	88.0	87.0	87.5	85.7	92.0
	悪化	4.0	8.7	8.3	7.1	8.0
	D I	4.0	△ 4.4	△ 4.1	0.0	△ 8.0
⑥従業員	増加	29.2	27.3	30.4	22.2	24.0
	不変	50.0	45.5	43.5	44.4	44.0
	減少	20.8	27.3	26.1	33.3	32.0
	D I	8.4	0.0	4.3	△ 11.1	△ 8.0

景気の現況について（四半期ごとの推移）



(2) 前期の比較と来期の見通し

今期の業況 (%)		27年 7-9月期	27年 10-12月期	28年 1-3月期	28年 4-6月期	28年 7-9月期
前期比	好転	28.0	21.7	20.0	21.4	15.4
	不変	56.0	43.5	32.0	35.7	46.2
	悪化	16.0	34.8	48.0	42.9	38.5
	D I	12.0	△ 13.1	△ 28.0	△ 21.5	△ 23.1
来期の見通し	好転	28.0	21.7	16.7	10.7	15.4
	不変	52.0	56.5	62.5	53.6	50.0
	悪化	20.0	21.7	20.8	35.7	34.6
	D I	8.0	0.0	△ 4.1	△ 25.0	△ 19.2

1. 企業からの主なコメントおよび業界の動向

(1) 製造業

◆一般機械

産業機械の分野では、海外を中心に製造ラインの自動化や省人化ニーズの高まりから、産業ロボット関連市場が拡大し、堅調に推移した。一方で、軸受け（ベアリング）については、産業機械の市場分野の低迷や円高の進行に伴い低調に推移している。

◆電気機械

電装化や IT 化が進んでいる自動車分野が好調に推移した。一方で、日系のセットメーカー（※）が低迷しているほか、液晶テレビ・AV 機器・パソコン等のデジタル家電分野の不調が続いている。

※ セットメーカーとは、ブランド力を持ち、最終消費者へ商品を開発・販売する製造業者のこと。

◆輸送機械

北米ならびに中国での四輪自動車販売が回復したことから、同地域向け四輪エンジン部品の受注が好調に推移した。一方、国内では熊本地震の影響から、取引先の工場が生産休止しているため、二輪関連部品の受注が大きく減少した。

◆プラスチック

猫向けのペット用品関連が好調に推移した。一方、介護用品が不調となった。

◆医薬品

ジェネリック医薬品が好調だった一方で、配置医薬品は依然不調である。

◆紙加工・卸

印刷包材では化粧品や OTC（薬局・薬店）向け医薬品包材、医薬品パッケージ用の板紙や添付文書用の洋紙が引き続き好調だった。一方、医療用長期収載品向け印刷包材や、グラフィック用紙（洋紙）が不調となった。

(2) 非製造業

◆食料品卸売

台風や天候不順の影響から、野菜の高値が続いた。

長芋、生しいたけ、おくら、ゴーヤ、ズッキーニ、シャインマスカット、キウイフルーツ、パイナップルが好調だった。一方、白菜、キャベツ、胡瓜、レタス、ピーマン、小松菜、桃などが不調となった。

◆リース

産業機械、工作機械、医療機械のリースが好調だった一方、情報関連機器、土木建設機械が不調となった。

◆大型小売店

<百貨店>

身の回り品、化粧品、家庭用品、食堂・喫茶部門が好調だった。一方、紳士・婦人衣料品、子供衣料品が不調となった。

<大型店>

一般ドライ食品（乾物）や青果物など食料品が好調だった。一方、子供・ベビー衣料品、靴、服飾関連が振るわなかったほか、寝具やインテリア関連も不調となった。

◆旅 行

国内及び海外向けの団体旅行、海外個人パッケージ旅行が好調だったほか、JR 券・航空券の単品販売も順調だった。一方、個人の国内旅行が不調となった。

◆宿 泊

ホテルでの宴会、ウエディングが好調に推移した。新幹線開業効果の反動もあり、宿泊に関しては、前年度に比べ落ち込んでいる。

◆飲 食

テイクアウトや会議用の弁当が増加した一方で、宴会利用が不調となった。

◆情報関連

マイナス金利政策の影響から金融機関のシステム投資が縮小傾向にあるほか、電力の小売自由化や社会保障の制度改革によるシステム開発需要も一段落ついた。

◆物流関連

海外市場での鉄の相場の低迷から、鉄の輸出が激減した。

◆住 宅

富山市内の地価上昇を受けて、不動産にかかわる商業的な動きが見られ始めた。一方、郊外の住宅地を中心に在庫が増えている。

◆建設工事

県内における7～9月期の公共工事受注額は、前年同月比で7月 16.4%、8月 10.9%、9月 19.3%となった（東日本建設保証（株）富山支店調べ）。富山市内の新設住宅着工戸数は7月 6.4%、8月 67.8%、9月▲12.4%となった。（富山県建築住宅課調べ）

<富山県の公共工事の受注額>

	受注額 (100 万円)		前年 同月比 (%)
	平成 28 年	平成 27 年	
7 月	15,522	13,331	16.4
8 月	11,549	10,415	10.9
9 月	16,704	13,999	19.3

(東日本建設保証 (株) 富山支店調べ)

<富山市内の新設住宅着工戸数>

	戸数 (戸)		前年 同月比 (%)
	平成 28 年	平成 27 年	
7 月	299	281	6.4
8 月	287	171	67.8
9 月	296	338	▲12.4

(富山県建築住宅課調べ)

◆新車販売

県内の新規自動車登録台数 (軽自動車は除く) は、前年同月比で 7 月 4.9%、8 月 7.7%、9 月 0.2% となった (富山県自動車販売店協会調べ)。

軽自動車登録届出数は、前年同月比で 7 月 ▲9.1%、8 月 1.9%、9 月 ▲6.9%となった (軽自動車検査協会富山事務所調べ)。

<県内の新規自動車登録台数 (軽自動車は除く) >

	台数 (台)		前年 同月比 (%)
	平成 28 年	平成 27 年	
7 月	2,755	2,626	4.9
8 月	2,148	1,995	7.7
9 月	3,039	3,033	0.2

(富山県自動車販売店協会調べ)

<軽自動車登録届出数>

	台数 (台)		前年 同月比 (%)
	平成 28 年	平成 27 年	
7 月	1,460	1,606	▲9.1
8 月	1,232	1,209	1.9
9 月	1,762	1,892	▲6.9

(軽自動車検査協会富山事務所調べ)

2. 雇用情勢の状況及び人材確保について

雇用情勢の改善が続く中、人材不足が深刻化している業種も見られます。そこで、各社（または業界）の情勢や人材確保・育成等の取り組みについて聞いた。

業種を問わず「新卒採用を増やす」「人材の募集を行っている」等の意見が多く見られ、採用意欲は高いように思われる。

「事業拡大に伴い、営業・開発に係る専門要員の積極的な採用を進めている」「ハローワークでの求人」など、新卒採用や中途採用に積極的に取り組んでいるといった回答が多かった。

また、「海外・現地での生産移管・拡大に伴い、海外拠点をオペレート（運営・支援）するグローバルなマネジメント力を有する人材が不足しており、グローバルで活躍できる人材を育成するための英会話研修などにも力を入れている」といった声も聞かれた。

一方、人材確保に苦労しているといった回答も多く、「販売職種で求人募集しても応募が少なく、人材不足感がある」「求人募集を行ったものの、何の連絡もなく、今後の事業計画を見直さなければならぬ」など、中小企業では人材確保が困難になってきているといった意見が見られた。

採用活動としては「今年度より県外からの採用を重視しており、大学での個別リクルートを増加させている」「インターン制度で来社する学生に対する内容を充実させ、アピールしている」「会社説明会の実施回数を増やしたほか、東京など首都圏でも説明会を開催する」「説明会の際に、若手社員との交流会を実施している」など、人材確保に向けた様々な取り組みが行われていることが分かった。

このほか、「人材確保が容易で、企業誘致を積極的に推し進めている他県での工場立ち上げ等を検討している」と県外での展開を検討している企業もあった。

3. 北陸新幹線の開業1年半後の状況について

北陸新幹線が開業し、富山県内の観光地等には多くの観光客が訪れ、賑わいをみせるなど、新幹線の開業効果が見られた。そこで各社（または業界）における新幹線開業の波及効果や影響・問題点等について聞いた。

各社（業界）への波及効果や影響については、東京や長野方面へのアクセス（所要時間の短縮や便数の増加）が向上したことにより、「ビジネス客等の往来が増えた」といった意見が聞かれた一方、「影響はない」「新幹線開業効果は感じられない」といった意見もあった。

新幹線の開業に伴い、東京方面へのアクセスが向上したことで「東京方面からの営業や商談が増えた」といった回答や「富山・東京間の連携の強化、長野への市場開拓に効果があった」等の関東方面（新幹線沿線）へのビジネス展開や利便性向上に関する意見があった。

一方で、「東京へのアクセスが良くなり、東京本社とのコミュニケーションがとりやすくなった反面、名古屋方面とのアクセスが悪くなり、中部圏を管轄する官公庁や取引先とのコミュニケーションはとりにくくなった」との意見もあった。

また、「JR富山駅周辺での飲食店の出店意欲が依然高い」や「新幹線効果も落ち着き、開業2年目の反動が出てきた」といった意見もあった。

以上